

環境

Environment

シーシーアイグループは、「2050年カーボンニュートラル」に向けて、温室効果ガスの削減、環境に配慮した製品の提供やシーシーアイグループならではの技術を活かし、地球環境の保護活動に積極的に取り組んでいます。

基本的な考え方

シーシーアイグループは、企業理念に基づき、当社が社会に影響を与える立場であることを理解し、地球環境の保護、人々の健康を確保、持続可能な社会の実現を目標に、継続的に取り組みを推進します。

環境

環境マネジメントシステム

シーシーアイグループは、全従業員が共通の認識をもって環境対策に取り組むべく、ISO14001に基づく環境マネジメントシステムを導入し、環境への取り組みについて計画し、実施・レビューを行い、継続的な改善を進めています。認証未取得の生産拠点においては、認証の取得に努めています。

 国内外における ISO14001 認証取得 **8** 拠点 (2025年3月時点)

気候変動に対する戦略

気候変動によるリスクと機会

シーシーアイグループは、TCFD提言に基づき1.5℃シナリオ、4℃シナリオにおけるシナリオ分析を実施しました。1.5℃シナリオではIEA NZEやIPCC RCP1.9等を参照し、4℃シナリオではIEA STEPSやIPCC RCP8.5等を参照しました。シナリオの分析の結果、次のような気候変動に関するリスクと機会を特定し、その財務影響を算定しました。リスクの最小化、機会の最大化に向けた対応策を検討の上、適切に実施していきます。

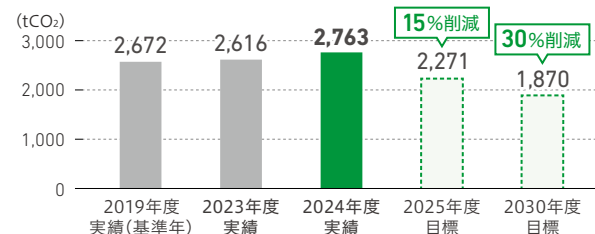
気候変動によるリスクと機会 一覧表

種 類	内 容	時間軸	重要度	項 目	対 応 策
移行リスク	炭素税の導入により炭素集約度が高い原材料の調達コストが上昇する	中期	大	温室効果ガスの削減	■省エネルギー活動や再生可能エネルギーの利用によるScope1、2の削減 P.22 ■サプライヤーエンゲージメントによるScope3の削減
物理リスク	異常気象の甚大化により、製造拠点が停止することで生産が遅延し、売上が減少する	中期	中	異常気象対応	■事業継続計画 (BCP) マニュアルの策定と事業継続管理 (BCM) 体制の構築 P.30 ■定期的な見直し・訓練の実施 P.30
機会	環境配慮型製品の開発・販売により市場の優位性を確立することで売上が増加する	中期	中	環境配慮型製品の開発	■石油由来原材料からバイオ由来原材料への変更 ■環境に配慮した容器包装への転換 P.14

気候変動への取り組み

温室効果ガスの削減

シーシーアイは、温室効果ガス排出量削減の取り組みとして省エネルギー活動や再生可能エネルギーの利用を推進しています。Scope1、2における自社CO₂排出量を2030年度までに2019年度比で30%削減するという中期目標を設定しています。活動を促進するためプロジェクトを発足し、生産活動における排出量削減のためアクションプランを設定し、排出量削減に取り組んでいます。また、2022年度よりグループ会社においてもCO₂排出量の算定を行い、今後もシーシーアイグループ全体で取り組みを進めていきます。

シーシーアイのCO₂排出量の目標および実績 (Scope1、2)

※算定方法の変更に伴い、比較の一貫性を保つため、2023年度のデータについても新たな算定方法に基づき再計算しています。

※2024年度より、ガソリン使用によるCO₂排出量を「一次データ」を基にしたデータにて実績値を算出しています。

【CO₂排出量削減に向けた取り組み
再生可能エネルギーの導入】

日本ケミカル工業では、再生可能エネルギーの積極的な導入と省エネ対策の徹底に取り組んでいます。2022年4月より本社使用電力の「再生可能エネルギー化100%」を達成、本社全体で排出されるCO₂排出量の80%を削減することができました。更に、自社工場で排出される「CO₂排出量実質ゼロ」をめざし、「世界の自社工場からCO₂排出量実質ゼロ」を掲げ海外グループ会社に展開していきます。

▶CO₂排出量削減に向けた主な取り組み

- ・LCA算定勉強会の開始
- ・社内カーボンプライシング(ICP)の導入
- ・全社用車のハイブリット化(2025年まで)
- ・作業工程の見直しによる設備稼働時間の削減

製品の環境貢献

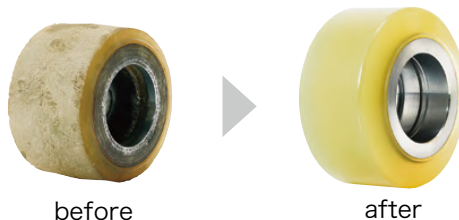
基本的な考え方

シーシーアイは、今まで培ってきた技術を活用し、環境に配慮した製品の開発に取り組んでいきます。

環境配慮型製品の開発

【長寿命ウレタンタイヤ「ウルトランス」巻き直し】

産業タイヤ事業では、長寿命ウレタンタイヤ「ウルトランス」の巻き直しを行っています。巻き直しとはウレタン車輪のホイール部分を再利用し、新しいウレタンを貼り替えることで車輪の機能を復活させる技術です。これにより、車輪を丸ごと交換する必要がなくなり、ホイール部分の製造と廃棄にかかるコストを削減し、環境負荷の軽減に貢献します。今後も耐摩耗性に優れた製品や、高耐久で長く使える製品の開発を行い、廃棄物の削減を図っていきます。



巻き直しの実績

3,656本

(2024年度)

【燃料添加剤の開発】

日本ケミカル工業では、燃料添加剤の開発を行っています。燃焼室内では燃料の不純物や不完全燃焼によるすす等の影響で堆積し、エンジンに悪影響を与える汚れ(デポジット)が発生します。エンジン清浄剤は、インテークバブル・インジェクター・スパークプラグ・燃焼室等に固着した油溶性と水溶性の汚れを、2つの有効成分で一度に除去することに成功しました。環境面では、排気ガス浄化・燃費回復に貢献し、燃料品質に課題のある新興国市場においても、当社製品の高い適応性と信頼性を活かし、持続可能なモビリティの実現をめざし、販売拡大を推進していきます。



燃料添加剤

【グリーストラップのコンパクト化】

下田エコテックでは、業務用の厨房に設置が義務付けられている「グリーストラップ(油脂分離阻集器)」の設計・製造・販売を行っています。2022年10月に販売開始した新型グリーストラップ(NSシリーズ)は、従来品より設置面積最大33%削減・槽内容積最大46%削減というコンパクト化に成功し、材料使用量の削減を実現しました。一方で、従来品同等の槽サイズと比較して、油の阻集量を最大47%アップできました。



化学物質管理体制

化学物質管理体制の構築

シーシーアイは、化学物質の審査および製造等の規制に関する法律、特定化学物質の環境への排出量の把握等および管理の改善の促進に関する法律、労働安全衛生法、毒物および劇物取締法等多岐にわたる法令を順守しています。また、化学物質による人、環境への悪影響を未然に防ぐため、各部門と協力し合い、化学物質の管理体制の構築、作業工程の見直し等による環境負荷物質の使用量削減に取り組んでいます。

サーキュラーエコノミーの実現に向けて

基本的な考え方

シーシーアイグループは、行動規範に基づき、サーキュラーエコノミーの実現に向けて活動していきます。製造過程で発生する廃棄物の削減を図るとともに、リサイクル資源を有効活用し新たな資源投入を抑えた製品生産を推進していきます。また、自社製品の再資源化と活用に向けて取り組んでいます。

廃棄物の抑制

【産業廃棄物の廃棄方法の見直し、分別の徹底による廃棄物の削減】

シーシーアイは、リサイクルができていない産業廃棄物の廃棄方法を見直し、製造過程で発生する産業廃棄物の一部をマテリアルリサイクル化しました。また、製造過程および日常業務で発生する廃棄物の一部を資源としてリサイクルし、分別を徹底することで更なるリサイクル率の

向上を図っています。また、シーシーアイグループでは紙使用量を削減する取り組みも推進しており、今後も廃棄物の削減活動に積極的に取り組んでいきます。



マテリアルリサイクル率
(シーシーアイ)

66%

(2024年度)



紙使用量削減率
(シーシーアイ)

48%

(当社2021年度比)

【端材量の削減】

住設・建材事業では、防音排水管で使用するオレフィン系防音シート材料のサイズ変更を行い、1枚の材料から製品に使用する防音材の割合を増やし廃棄物を削減しました。



原材料使用量

35%削減

(当社2023年度比)

【原料廃棄量の削減】

産業タイヤ事業では、原料投入時のたれ切り時間の見直しを行い、原材料を限りなく有効活用することで廃棄量を削減しました。



原材料使用量

28%削減

(当社2023年度比)

【工場洗浄水の再利用、削減】

カーケミカル事業では、工場内タンクの洗浄水の削減、再利用に取り組んでいます。今後はシーシーアイとして水使用量の削減目標を設定し、継続的な水資源の確保を通じて、持続可能な社会に貢献していきます。



洗浄水削減量

13%削減

(当社2019年度比)

自然共生

環境保全活動

シーシーアイグループでは、地域環境の保全と生物多様性の保護に向けた取り組みとして、従業員によるボランティア活動を通じ、工業団地内や河川、海岸等の清掃活動を定期的実施しています。日本ケミカル工業では、2024年6月に三保真崎海岸の清掃活動に参加し、海岸に漂着したごみの回収を行いました。今後も地域社会との連携を深めながら、継続的な環境保全活動を推進していきます。



三保真崎海岸清掃活動の様子(2024年6月)

社会

Social

シーシーアイグループは、行動規範に基づき、安全を最優先した行動、お客様の満足度の向上に努めていきます。また、地域社会と積極的に交流を行い、事業を活かした活動や社会の課題に応える活動を通して、持続的な社会貢献をめざしていきます。

品質

スマートファクトリーで世界基準の品質を確保

基本的な考え方

シーシーアイグループは、企業理念に基づき、お客様と責任ある対話を行い、お客様の品質要求を超えるように努め、お客様にとって安心・安全・快適な製品・サービスを提供します。

お客様に安心・安全な製品を常にお届けするため、毎月、グローバル品質会議を開催しています。品質管理については、海外の技術供与先や製造委託パートナーも含めたサプライチェーン全体における管理体制を構築。品質の維持・向上にシーシーアイグループとして努めています。現在、国内生産拠点のスマートファクトリー化を進めており、将来的にすべての生産拠点においてERPを刷新し、高度で効率的な品質管理の仕組みをグローバルで構築していきます。

品質保証体制への取り組み

シーシーアイグループは、品質マネジメントシステム(ISO9001)やIATFの認証を取得し、継続的な改善を推進しています。製造現場では作業手順の見える化を進め、お客様のクレームには安全を第一に迅速・適切に対応しています。今後も品質担保の仕組みを強化していきます。

▶品質マネジメントシステム外部認証(2025年3月時点)

ISO9001認証 **10拠点** IATF16949 認証 **5拠点**

教育の実施

シーシーアイは、品質教育を定期的に全従業員に実施しています。製造部門ではコンサルタントとともに、品質意識・生産性向上を目的とした改善活動を行っています。これからも継続的な教育を行い、従業員の品質への意識を高めていきます。

お客様とともに

顧客満足度向上への取り組み

シーシーアイは、顧客満足度を図るために顧客窓口寄せられるお客様の声や定期的に行っている「お客様満足度調査」でのアンケートのご回答を真摯に受け止め、その貴重なご意見を各部門の改善活動へつなげています。また顧客窓口担当者を対象に電話対応マニュアルを整備し、電話対応スキル教育を実施しています。今後も、お問い合わせに対して、より一層のサービス向上に努めていきます。

取引先様とともに

方針

調達に関するコミットメントとして「シーシーアイグループ調達方針」を当社コーポレートサイトで公開しています。

 シーシーアイグループ調達方針

CSR調達の取り組み

シーシーアイは、従来の品質・性能・価格・納入条件を重視した調達活動から自然・労働環境・人権等といったCSR要素も重要視した調達活動に向けて取引先様(サプライヤー)とともに取り組んでいます。事業の持続性に影響を及ぼす可能性のあるリスクを低減することを目的にCSR調達ガイドラインを制定し、取引先様にご理解していただいた上で、サプライチェーン全体に展開しています。また、その状況を確認するため、CSRガイドラインの順守状況や紛争鉱物調査等のアンケート調査(SAQ)を実施し、取引先様とともに事業の持続性を確保しています。

社会貢献活動

基本的な考え方

シーシーアイグループは、企業理念に基づき「地域貢献」「人材育成」「環境保全」「災害支援」の重点分野で役員及び従業員の積極的な社会貢献活動への参画を通して、人々の豊かな暮らしの実現、持続可能な社会への貢献を目指します。

地域貢献

【岐阜県スキー連盟 フリースタイル部】

2023年度より岐阜県スキー連盟フリースタイル部に協賛、2024年度より揖斐郡池田町出身のフリースタイルスキー競技モーグル種目の堀島行真選手(トヨタ自動車所属)、各務原市出身の浅野志織選手(中京大学所属)に協賛し、地元選手や未来を担う子どもたちの育成を支援しています。モーグルは、選手が雪原をジャンプや回転しながら滑走する競技で、速度よりも技の難易度や技術を競うことが特徴です。競技会や体験会にはのぼりや横断幕



締結の様子(2024年12月)

を掲出、参加賞として当社のロゴ入の景品を提供しました。これからも様々なイベントを企画し、地元スポーツの活性化も願い、活動を盛り上げていきます。

【白川村 企業版ふるさと納税】

2024年度より企業版ふるさと納税を活用し、岐阜県大野郡白川村に寄附を行いました。白川村は岐阜県唯一のユネスコ世界文化遺産「合掌造り集落」を有し、世界中から注目を集めています。しかし現在白川村は人口減少と少子高齢化という深刻な問題に直面しています。今回の寄附は、合掌造りと田園の風景を未来に残すための活動資金として活用されます。今後も文化的財産を保護し、地域活性化に貢献するための活動を継続していきます。

【新入社員による地域清掃活動】

2024年度より新入社員同士のコミュニケーションの活性化と地域社会の環境保全を目的に、新入社員研修の一環としてシーシーアイ(株)本社が所在する岐阜県の鳩吹山と周辺道路のゴミ拾い活動を実施しました。これからも従業員と地域社会との共生を図るために、地域清掃活動に積極的に取り組んでいきます。

鳩吹山清掃活動の様子
(2024年4月)

TOPIC

シーシーアイ・オートモーティブ・プロダクツ(タイ)の活動

2024年7月より地元チョンブリー県のサッカーチームであるYFA football Club様の活動に賛同し、オフィシャルスポンサーとして活動しています。YFAは聴覚障がい者と健常者混合のチームで、地元チョンブリー県の特別支援学校ともサッカーを通じて交流をしています。2024年11月にはYFA主催のフットサル大会にシーシーアイチームとして初めて参加しました。これからも地域社会との交流を通じた貢献活動を続けていきます。



フットサル大会の様子(2024年11月)

ユーエスシーの活動

2024年度よりこども食堂のイベントに参画し、イベントのボランティア活動の一環として来場した子どもたちに当社で所有している業務用ポップコーンマシンで作ったポップコーンを無償で提供する活動を実施しています。こども食堂は年々増加しているため、今後も当社の営業支店地域にあるこども食堂のイベントに積極的に参画し、事業を通じて子どもたちの心身の健やかな育成を支援していきます。

「駄菓子屋食堂」イベントの様子
(2024年8月)

▶主な協賛先一覧(2024年度)

▶モータースポーツへの支援

- ・ TOYOTA GAZOO Racing
- ・ ホンダモビリティランド
- ・ ホンダモビリティランドレーシングスクール
- ・ AUTOBACS RACING TEAM AGURI

▶地域スポーツへの支援

- ・ 岐阜県スキー連盟 フリースタイル部
- ・ モーグル堀島行真選手
- ・ モーグル浅野志織選手
- ・ プロバスケット「岐阜スウープス」
- ・ プロサッカー「FC岐阜」

- ・ モトクロス土屋元希選手
- ・ ふどうの森トレイルラン
- ・ 高橋尚子杯ぎふ清流ハーフマラソン
- ・ 岐阜県サッカー協会4種(小学生チーム)
- ・ SHIBATA DRIFT RACING TEAM
- ・ 刃物のまち関シテイマラソン

▶学生への支援

- ・ 自動車技術会学生会フォーミュラ
- ・ 岐阜大学フォーミュラ
- ・ 名古屋大学フォーミュラ
- ・ 岐阜大学工学部技術紹介プロジェクト

▶その他支援

- ・ 関商工会議所 創立70周年記念イベント(能・狂言)
- ・ 関市民花火大会
- ・ ぎふ長良川花火大会
- ・ ぎふチャンまつり
- ・ 祐の会(お雛子、長唄の会)

企業理念を実践へ。2つの共創プロジェクト

シーシーアイでは、企業理念を2023年に再構築してから、私たちのパーパス(存在意義)の実現をめざし、全従業員一人ひとりが企業理念を理解し、共感し、実際の行動に移すための様々な取り組みを実施しています。これらの取り組みを通じて、従業員自身が成長し、会社が成長し、お客様や社会に貢献できる企業をめざします。

企業理念

Our Purpose 私たちの存在意義

「新しい」を共創し、
世界に安心・安全・快適を提供します

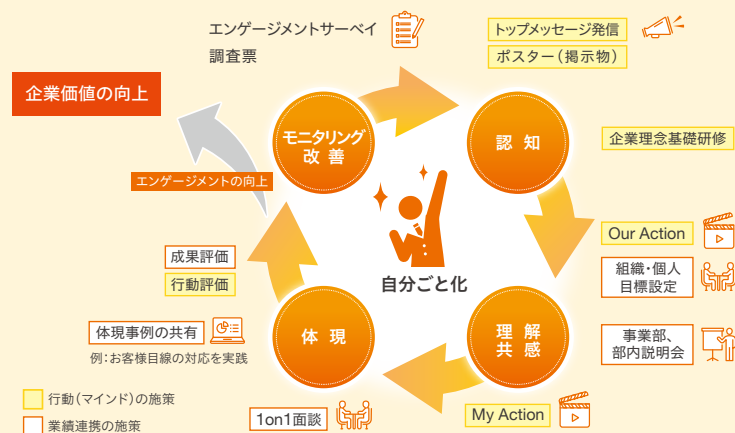
Our Values 私たちの大切な価値観

Change
変革への挑戦

Create
お客様目線で
創意工夫

Innovate
全員で経営革新

企業理念の実践を支える取り組み



プロジェクト

企業理念を新しい世代の人たちにつなげていく。人材の育成と組織・風土づくりの一環として2024年度は部署を横断するプロジェクトを実施しました。

会社、部署の垣根を超えたグループビジョン策定プロジェクト

2024年10月「グループビジョン策定プロジェクト」を発足し、国内グループ会社の中堅・若手社員27名が参加し、2040年をターゲットとしたグループの中期的な方向性を検討しました。このプロジェクトでは、メガトレンドや未来情報、2040年の事業環境の変化、会社の姿、各社間および他事業とのシナジーについて整理・検討しました。

ありたい姿を実現するために必要な要素を創出するプロセスでは、チーム毎に何度も議論を重ね、最終的には経営層に向けて2040年のありたい姿のストーリーと事業・施策カードを使用し、各チームの想いを発表しました。このプロジェクトを通じて、グループ全社の視点で各会社の現在の強みや今後の課題を明確にするとともに、長期ビジョン策定の手法を学ぶことができました。またバックグラウンドや風土が異なるメンバーと同じプロジェクトを経験することで、グループ間の一体感を醸成することができました。(グループビジョンは2025年度中完成予定)



会社、部署混合の4チームに分かれワークショップを実施



経営層に向けた発表会の様子

若手社員10名による社員旅行企画プロジェクト

2024年10月「社員旅行企画プロジェクト」を立ち上げ、若手社員10名が2025年に実施する社員旅行を企画しました。社内のニーズを調査したうえで、社員旅行の目的を「交流を広げ、『共創』の力を高める」と定め、「Borderless Challenge ~あなたが創るグループの輪~」をテーマに企画を推進しました。

計画立案から企画資料の作成、プレゼンテーションに至るまでのプロセスを通じて、メンバーは実践的なビジネススキルを磨きました。業務上の交流が少ない社員同士のコミュニケーションが活性化されたことで、今後の業務連携がより効果的に進むことも期待されます。本プロジェクトは、若手社員にとって成長と挑戦の機会となるとともに、企業理念の浸透と実践を促進する重要な取り組みとなりました。



経営層へプレゼンテーションを実施



社員旅行の様子

社員とともに

階層ごとの教育に加え、
個々の能力開発も支援
柔軟で働きやすい職場環境を整備

基本的な考え方

シーシーアイは、企業理念に基づき、教育制度を拡充させ人材育成に取り組んでいます。また行動規範に基づき、全従業員が仕事と生活の調和を図り、個人の能力を最大限に発揮できる職場をめざしていきます。

シーシーアイでは、新入社員から管理職まで、階層ごとに体系化された教育制度を整備しています。また、資格取得等、社員の自発的な学びを支援する仕組みの他、退職者の復職制度も整備しています。2024年度には、従業員の多様な働き方を推進するべく育児・介護規程を変更。テレワークの推進等、育児世代が男女の別なく働きながらキャリア形成ができるよう、環境整備に尽力しています。また、毎年従業員満足度調査を実施しています。これは安全・安心で快適な職場環境の維持向上をめざすもので、調査の中で挙げられた意見に対してフィードバックを行い、継続的な改善に取り組んでいます。



人材育成

シーシーアイは、教育制度の拡充の他、従業員が業務に関する資格を取得することを奨励するため資格取得報奨金給付制度を定めており、能力開発およびキャリアアップの機会を公平に提供しています。

■研修一覧

階層	階層別研修	テーマ別研修	部門別研修	自己啓発
管理職	新任部長研修 新任グループ マネージャー研修	企業理念 サステナビリティ 人権 行動規範		
中堅社員	新任リーダー研修 昇格時研修	コンプライアンス 安全衛生 環境・品質 情報セキュリティ 避難訓練	各部門で 実施	社外セミナー 社内勉強会 ビジネス英会話研修 eラーニング
若手社員 新入社員	3年目研修 新入社員研修	ハラスメント LGBTQ* メンタルヘルス 5S 安全運転 救命講習		資格取得報奨金 給付制度
内定者	内定者研修（入社前）			

※LGBTQ：性的マイノリティの総称

働きがいのある職場づくり

【働きがいのある職場づくり】

シーシーアイは、スーパーフレックスタイム制や副業・兼業制度を導入、2023年度には退職した社員に対する再雇用制度（ジョブリターン制度）を導入し、何らかの事情で当社を退職した社員の復帰を可能としました。2020年度にはテレワークの導入、2022年度には更なるシステムのクラウド化を実施し、テレワークが可能となる職種を広げました。また場所にとらわれない柔軟かつ効率的な働き方を推進するフリーアドレススペースも導入し、従業員が安心・快適に働ける環境整備を進めています。

【育児と仕事の両立】

シーシーアイは、子育てをする従業員に対し、法定以上の育児休業制度や短時間勤務制度を導入しています。2022年度には育児目的休暇を子が3歳の年度末まで取得期間を延長し、男性でも育児に参加しやすい体制を構築しました。

DE&I

【LGBTQに関する取り組み】

シーシーアイは、LGBTQを正しく理解するために全従業員を対象に外部講師による研修を実施し、2022年度からアライを募り、活動を開始しました。レインボーバッジを配付し、アライの見える化を推進しています。これらの取り組みが評価され、2022年度より3年連続PRIDE指標（LGBTQへの取り組みの評価指標）でブロンズ認定されました。



133人
(2025年3月時点)

デジタル化による生産性向上

シーシーアイは、全部門の業務のデジタル化、自動化を推進し、会社全体の生産性向上および従業員の働きやすい環境づくりに取り組んでいます。2018年度より工場のスマートファクトリー化の活動を開始し、製造工程の可視化や製造指示書・品質チェック等をデジタル化しました。また2020年度より基幹システムを刷新し、品質向上、生産性向上を進めています。



1,446h
(2024年度 社内で算出した暫定値)

人権の尊重

基本的な考え方

シーシーアイグループは、企業理念に基づき、時代に合わせてビジネスモデルを変えながら、これまでにない付加価値を絶えず社会に提供するために尽力しております。私たちは、人権尊重を事業継続のために果たすべき最重要の責務の一つと位置づけ、「シーシーアイグループ人権方針」を定め、役員及び従業員一体となって取り組みを推進します。

方針

人権に関するコミットメントとして「シーシーアイグループ人権方針」を当社コーポレートサイトで公開しています。

[WEB](#) シーシーアイグループ人権方針

人権デュー・ディリジェンス

シーシーアイグループは、2022年より国連の「ビジネスと人権に関する指導原則」に基づき人権デュー・ディリジェンス※を開始しました。

■ 是正措置

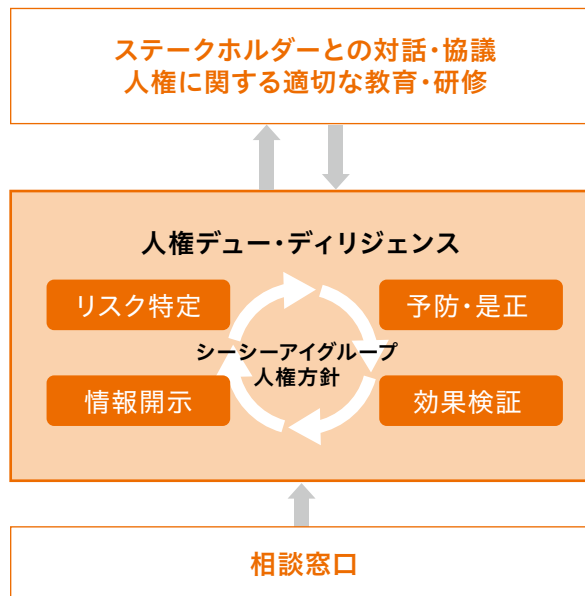
2023年度に実施したアセスメントに基づき、協力会社に対して、労働災害発生時のルール整備等の是正措置に取り組みました。また、グループ会社においては、グループ全体での水準を合わせ人権リスクを低減するために、人権に関する規程類や従業員の声をくみとる機会の整備を進めました。

■ アセスメント

2024年度は国内外のグループ会社および一部の協力会社20社から自己評価調査票(SAQ)に回答いただき、リスクの調査・分析を行いました。(SAQ回答率:100%)今後も、特定した課題について、対応を進めていきます。

※人権デュー・ディリジェンス:人権への負の影響を特定、防止、軽減し、どのように救済するかという継続的なプロセス

■ 取り組みの全体像



教育の実施

シーシーアイは、2021年より毎年、国内のすべての役員と従業員を対象に、シーシーアイがビジネスと人権に取り組む背景や起こりうる人権リスクの理解およびハラスメントの防止を目的に、外部講師による研修を実施しています。(受講率:100%)更に管理職には人権デュー・ディリジェンスの取り組み結果を共有し、当社が直面する課題、企業としてのあるべき姿を理解し、ともに取り組むことを推進しています。

相談窓口の設置

国内外のすべてのグループ会社の従業員が利用できる相談窓口を設置しています。また、定期的に研修等を通じて相談窓口の周知に努めています。すべての相談・通報については、事実関係の調査を行い、相談・通報者には調査結果を回答するとともに、必要に応じてその是正や再発防止に取り組んでいます。

労働安全衛生

基本的な考え方

シーシーアイグループは、企業理念に基づき、安全と健康をすべてにおいて優先して、取り組みを推進します。

労働安全衛生への取り組み

シーシーアイは、「安全で安心な職場をつくる」を重点課題に掲げ、取り組みを推進しています。労働災害リスクの低減・管理のため、労働安全衛生マネジメントシステム(ISO45001)を全拠点に構築し、安全・防災標準を策定しました。また重傷につながるリスクを軽減するために、適切な作業手順の整備、保護具着用の徹底等の対策や経営層も工場内安全巡回を実施しています。今後も、グループ全体での安全基準の制定、従業員の安全意識の向上を目的とした継続的な教育を実施し、労働災害リスクの低減に努めていきます。



経営層による工場内安全巡回の様子
(2025年4月)

TOPIC

EHS点検の実施

シーシーアイは、従業員の安全と健康を守り、安心して働ける職場環境の実現をめざして、EHS点検(環境・健康・安全)を2023年度より中華圏の海外グループ会社で実施しています。2024年度は国内2工場およびシーシーアイ・オートモーティブ・プロダクツ(タイ)にも活動を展開しました。実際に現地の工場を訪問し、安全衛生や環境に関する法令や規定の順守状況、現場に危険な箇所がないかな等を点検表に基づいて確認を行いました。特定された課題については優先順位を定め対応を進めています。今後も全社を挙げて安全で安心な職場づくりをめざしていきます。



EHS点検の様子(2025年1月)

ガバナンス

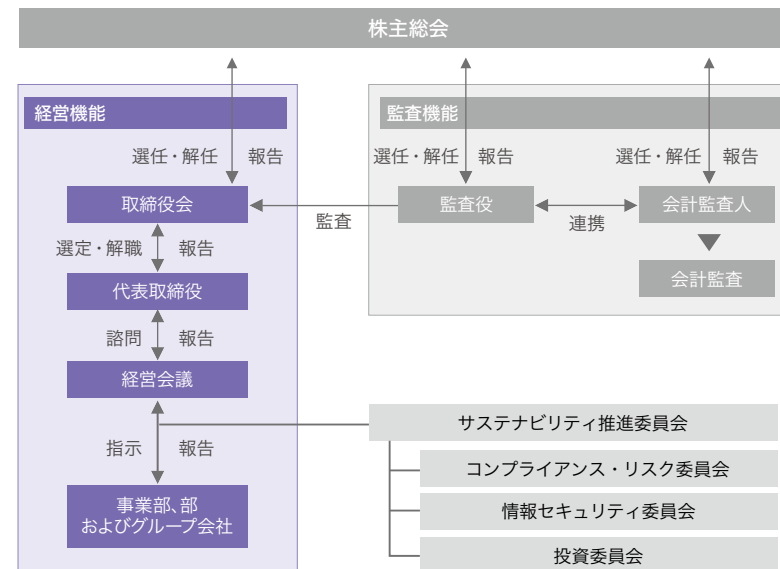
Governance

シーシーアイグループは、経営の透明性を高めながら監督機能の強化と意思決定の迅速化を図り、コンプライアンスを確保することをコーポレート・ガバナンス上の最重要課題と位置づけています。コーポレート・ガバナンス体制の強化・充実を推進することにより、企業価値の向上をめざしています。

コーポレート・ガバナンス

シーシーアイは、従業員をはじめ、株主様・お客様・取引先様・地域社会などすべてのステークホルダーを意識した、透明・公正かつ迅速・果断な意思決定ができるよう、右図のとおりコーポレート・ガバナンス体制を構築しています。最高経営意思決定機関である取締役会は、法令に定められた事項や経営に関わる重要事項の決定、取締役の監視機関として位置づけています。一方で公正・独立の立場から社外監査役を含めた、監査役が取締役の職務執行、経営の監査を行う体制を構築しています。

▶コーポレート・ガバナンス体制図



コンプライアンス

基本的な考え方

シーシーアイグループは、「行動規範ガイドブック」を作成し、法令順守にとどまらず、全従業員が一人ひとり高い倫理観をもって行動することで、コンプライアンスの徹底に努めています。

法規制対応

シーシーアイは、法規制の新設・改正の対応について、漏れなく正しく行うことを目的に、顧問弁護士と関連部門での定例ミーティングを毎月開催し、新設・改正情報、当社の対応や進捗状況を共有し、管理する体制を構築しました。今後も管理体制の強化に努めています。

内部通報

シーシーアイは、不正行為の未然防止、早期発見および是正を図り、コンプライアンス経営を推進することを目的として、内部通報システムを導入しています。従業員からの相談事や内部通報を受け付ける社外・社内の窓口を設置し、コンプライアンス・リスク事務局が適切に処理します。



重大な
法令違反

0 件
(2024年度)



通報件数
重大な法令違反や
不正行為に関わる通報

0 件
(2024年度)

コンプライアンス**教育の実施**

シーシーアイグループは、正しい知識の定着、意識の醸成を図るため、行動規範研修や外部講師によるコンプライアンス研修、ハラスメント研修を継続的に実施しています。今後も従業員の更なる意識の向上、浸透を図っていきます。

リスクマネジメント**事業継続計画**

シーシーアイは、緊急時対応計画(ERP)・危機管理計画(CMP)・事業継続計画(BCP)マニュアルを策定し、事業継続管理(BCM)体制を構築しています。毎年、定期的な見直し・訓練の実施を行うことで有事の際、誰もが動ける備えができるよう取り組んでいます。シーシーアイ・マニファクチャリング・イリノイ(米国)でも従業員向けに自動体外式除細動器(AED)、心肺蘇生法(CPR)のトレーニングを隔年実施しています。



総合防災訓練の様子(2024年12月)



安否確認
システム
訓練回答率

100%

(2025年3月)

情報セキュリティ**基本的な考え方**

シーシーアイグループは、企業理念に基づき、事業活動において情報セキュリティの確保は企業の社会的責任を果たす上で重要な経営課題の一つと位置づけ、2023年に「情報セキュリティ基本方針」を策定し、情報セキュリティの維持、向上に取り組んでいます。

方針

「情報セキュリティ基本方針」を当社コーポレートサイトで公開しています。



シーシーアイグループ情報セキュリティ基本方針

情報セキュリティへの取り組み

シーシーアイは、情報セキュリティマネジメント体制を構築し、不適正な事案が発生した場合には、原因究明、再発防止と予防策の措置を講じています。また、業務のデジタル化やDXを推進する中で、サイバー攻撃や情報漏洩によるリスクを軽減するために、セキュリティソリューション(EDR)を導入し、情報セキュリティの強化に取り組んでいます。今後は国内だけではなく、シーシーアイグループ全体での情報セキュリティ管理の強化に努めていきます。

▶ 主な取り組み

- ・情報セキュリティ管理体制の強化
- ・情報資産の管理
- ・情報セキュリティインシデントに対する対応
- ・情報セキュリティ教育

教育の実施

シーシーアイは、全従業員を対象とした情報セキュリティ教育や標的型攻撃メール訓練を実施しています。また、社内SNSツールを活用して、在宅ワーク時のセキュリティ対策等の情報セキュリティに関する情報を発信しています。更に政府のサイバーセキュリティ月間に合わせ、毎年2月～3月を情報セキュリティ強化月間とし、従業員が日常業務の中で情報セキュリティリスクを意識するための啓発活動を行い、従業員一人ひとりの情報セキュリティ基礎知識の向上を図っています。

研修会アジェンダ

1. セキュリティとは
2. 社外からの犯行
3. 社員としてのふるまい
4. 自然現象、物理的損壊
5. まとめ

情報セキュリティ教育資料

ESGデータ一覧

対象範囲 | CCI単体 :シーシーアイホールディングス(株)、シーシーアイ(株)が含まれる
CCI連結(国内):シーシーアイホールディングス(株)、シーシーアイ(株)、日本ケミカル工業(株)、(株)ユーエスシー、下田エコテック(株)が含まれる

環境

環境

CO₂排出量 (Scope1、2)※1



環境

総エネルギー使用量



環境

水使用量



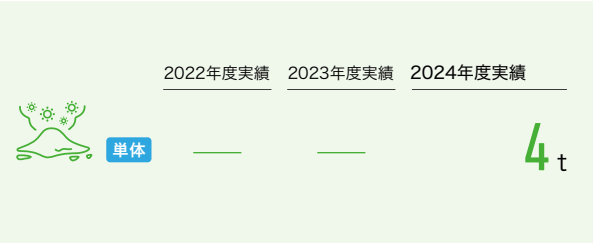
環境

産業廃棄物排出量



環境

有害廃棄物発生量



社会

人材育成

従業員1人当たりの平均研修時間



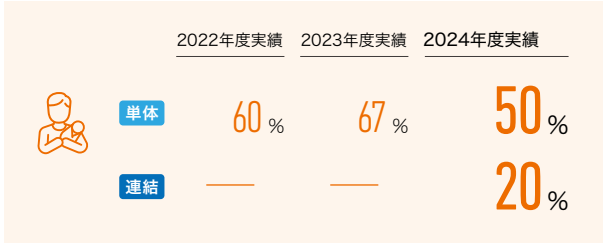
働きがいのある職場づくり

女性育児休業の取得率※2



働きがいのある職場づくり

男性育児休業および育児目的休暇の取得率※3



※1 算定方法の変更に伴い、比較の一貫性を保つため、2022年度、2023年度のデータについても新たな算定方法に基づき再計算しています。また、2024年度より、ガソリン使用によるCO₂排出量を「一次データ」を基にしたデータにて実績値を算出しています。
※2 2024年度に育児休業を開始した人数/2024年度に子どもが生まれた人数 ※3 2024年度に育児休業・育児目的休暇を開始した人数/2024年度に子どもが生まれた人数

ESGデータ一覧

対象範囲 CCI単体 :シーシーアイホールディングス(株)、シーシーアイ(株)が含まれる
CCI連結(国内):シーシーアイホールディングス(株)、シーシーアイ(株)、日本ケミカル工業(株)、(株)ユーエスシー、下田エコテック(株)が含まれる

社会

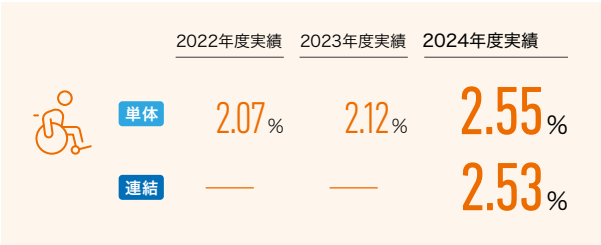
働きがいのある職場づくり

従業員1人当たりの有給休暇平均取得日数



DE&I

障がい者雇用率



労働安全衛生

労働災害件数※4



※4 休業災害以上

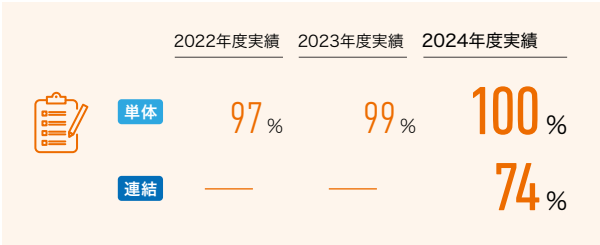
労働安全衛生

健康診断受診率



労働安全衛生

ストレスチェック実施率



ガバナンス

コンプライアンス

コンプライアンス研修受講率



情報セキュリティ

情報セキュリティ研修受講率



情報セキュリティ

重大セキュリティインシデント件数

